資料210-2-2

2019年度第3四半期の貯金残高について

2020年２月28日

ゆうちょ銀行

1　2019年度第3四半期の貯金残高について

○　2019年度第3四半期の「個人貯金等」は2018年度末比で2.5兆円増加の180.1兆円。(2018年度同期は1.7兆円の増加)(A)

○　貯金種類ごとに見ると、
ア　定期性貯金については、昨年度同様の減少傾向が継続。（B）
イ　流動性貯金（通常貯金、振替貯金（総合））については、払戻の減少により資金が滞留。（C、D）
※　振替貯金（総合）については、オートスイングの自動設定により、通常貯金へシフトしたため、大幅に減少（C）

注　「個人貯金等」とは、貯金残高から、法人等の決済性預金（＝振替貯金（一般））、大口定期、その他貯金を除いたもの

（単位：兆円）

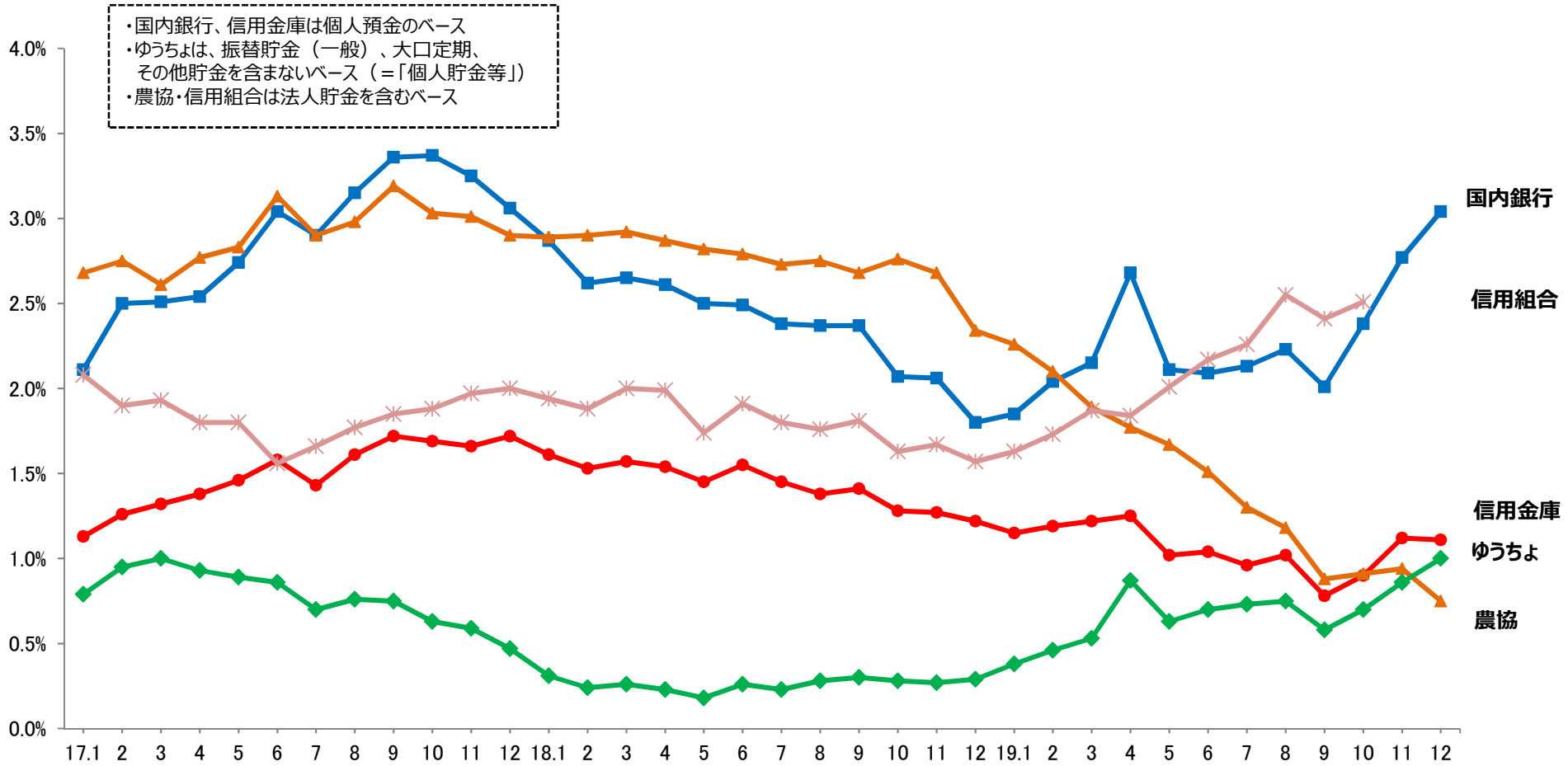
	①2019年3月末	②2019年12月末	増減（②－①）	2018年度同期の増減	2017年度同期の増減
貯金残高	180.9	183.9	2.9	1.9	1.6
個人貯金等	177.5	180.1	A 2.5	1.7	1.6
通常貯金	63.8	79.4	D 15.6	4.2	4.3
定額貯金	93.8	90.9	B ▲2.8	▲2.6	▲2.8
定期貯金　大口定期除く	7.0	5.7	▲1.3	▲1.2	▲0.9
振替貯金（総合）	12.8	4.0	C ▲8.7	1.3	1.0
法人貯金等	3.2	3.5	0.3	0.1	0.0
振替貯金（一般）	3.2	3.5	0.3	0.1	0.0
大口定期	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0

※　貯金残高には未払利子を含まない
※　自社株取得に伴うグループ会社の貯金等の特殊要因を除く
※　大口定期は、預入限度額適用除外法人等及びグループ会社による 1,000万円以上の定期貯金

2　業態別の預貯金残高（対前年増減率）について

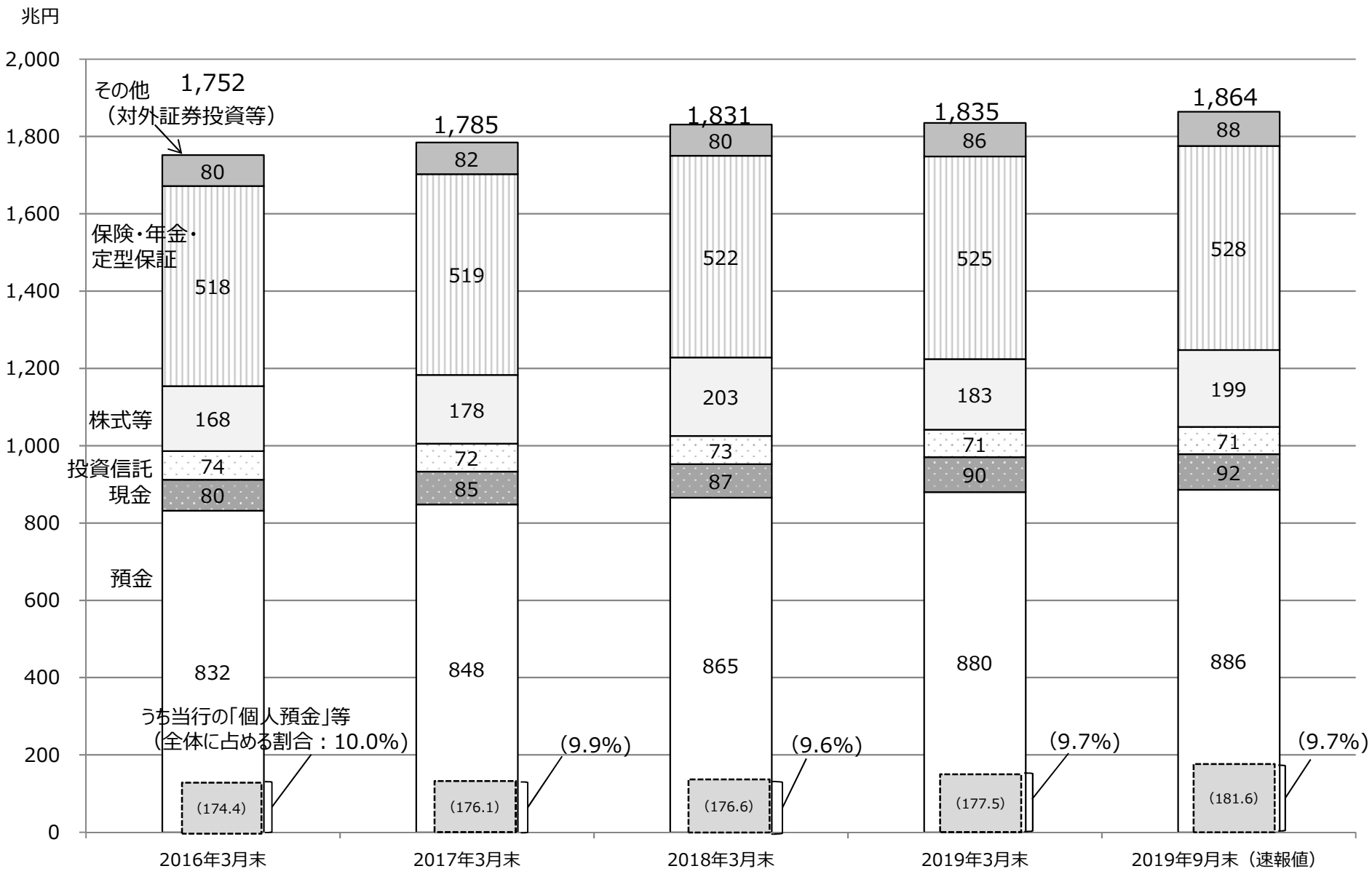
○　ゆうちょ銀行の「個人貯金等」の伸び率は、業界の中でも相対的に低位で推移。
（足許、農協の増加率が低下傾向にあり、当行より低位となった）
○　引き続き、各業態における流動性預貯金、定期性預貯金ごとの内訳やそれぞれの動向等を分析する必要がある。

業態別預貯金の増減率（前年同月比）の推移



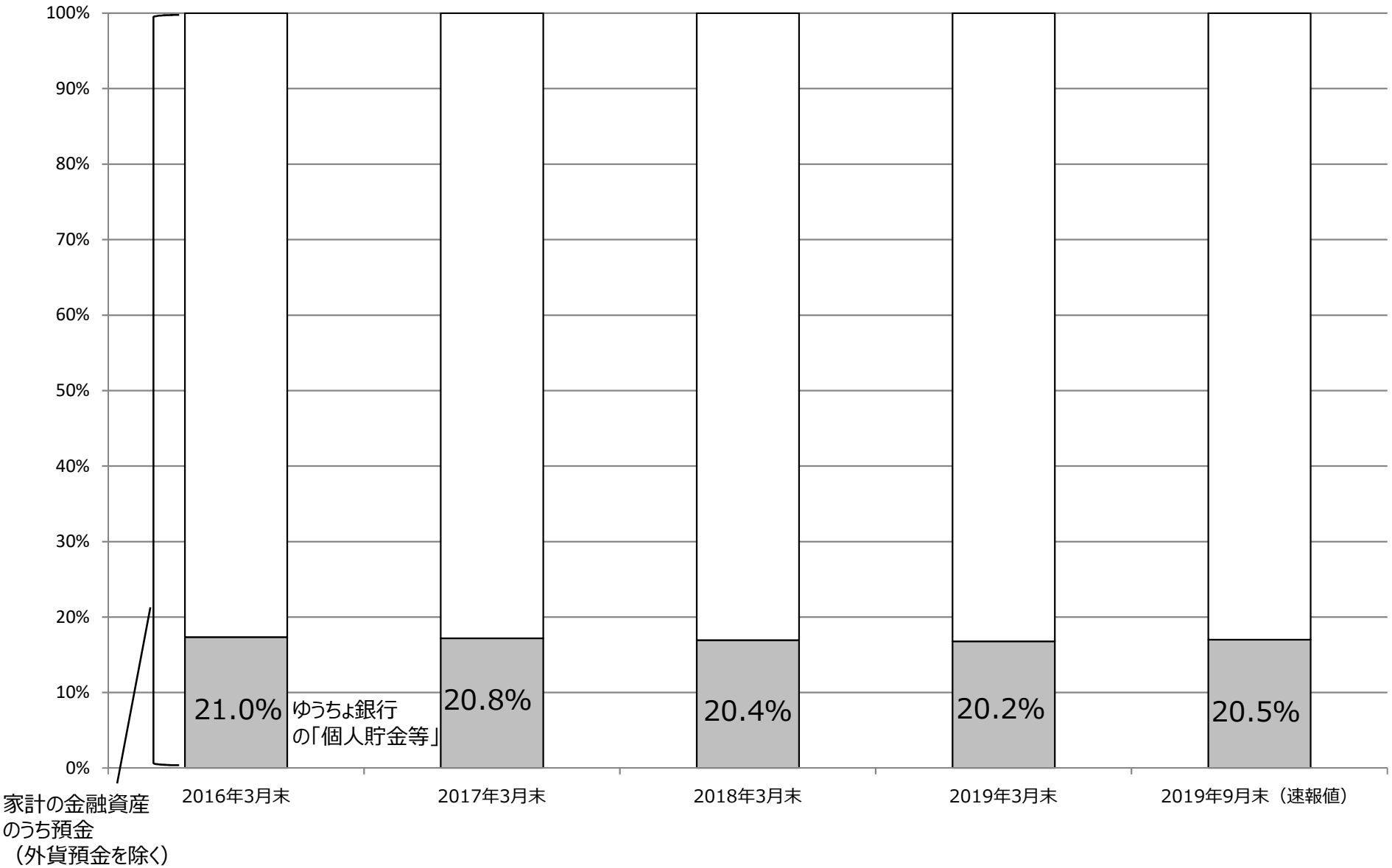
※１　農協・信用組合は法人貯金含む
※２　国内銀行・信用金庫は個人預金　（出所）日本銀行「預金・貸出関連統計」
※３　ゆうちょは大口定期、一般振替貯金、その他貯金は含まない（＝「個人貯金等」のベース）
※４　ゆうちょ残高に元加利子は含まない

＜参考１＞「家計の金融資産」に占める当行の貯金の割合



※　家計の金融資産残高は、日銀資金循環統計から作成。2019年9月末の値は速報値。
※　預金は、「流動性預金」＋「定期性預金」の合計金額。「外貨預金」については、「その他」に含めている。

＜参考２＞家計部門の「預金」に占める当行の貯金の割合



※ 日本銀行「資金循環統計」における家計の金融資産のうち、「流動性預金」及び「定期性預金」の合計金額を分母とし、ゆうちょ銀行の「個人預金等」残高を分子とした割合

※ 2019年9月末の資金循環統計は速報値